

平成30年度第1回経営協議会 議事要旨

日時 平成30年5月28日（月）14時30分～16時00分
場所 事務棟第二会議室
出席者 和田学長，江頭理事，鈴木理事，近藤副学長，佐山委員，
上林委員，榊原委員，佐藤委員，杉江委員，福田委員，舟本委員
欠席者
陪席者 海老名理事，石橋監事，小嶋監事，関事務局長

議事に先立ち，和田学長より各委員及び陪席者の紹介が行われた後，前回（3月12日）開催の平成29年度第6回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

審議事項

1. 文理融合型3大学連携について

和田学長から，文理融合型3大学連携について諮られ，審議の結果，原案どおり承認された。

なお，委員からは，主として以下のような意見等があった。

○ 今回の件には大いに期待するところであるが，背景には，少子化の中で学生の質と量をどう確保していくかという課題がある。

今回の方式でこれらの課題を改善するためには，それぞれの大学がこれまで以上に個性を発揮しなければならない。単純な3法人の統合でそれが実現できるかと言えばそれは大間違いである。各大学のこれまで以上のドラスティックな変革が必要ある。

また，今回の背景には，戦後の86国立大学体制や文教予算の見直し等があり，各大学に改革が求められている状況がある。これはやむを得ない状況であると考えている。

私自身，合併会社の経験とホールディング方式の会社の経験があるが，完全な合併方式は，システム・事務をどちらか一方に寄せることになり，寄せられる側は血のにじむ思いをすることになるが，大きな改革ができる。一方のホールディング方式は，合理化，変革もほとんど進まないという実態がある。経験上，個性・特色をそのまま残そうとするホールディング方式が一番難しいと感じている。今回の3法人の統合に際しては，3大学がどういった主張をしていくのかを考えると大変であろうと予想される。3大学の自主性を尊重することも必要であるが，今回の連携・統合に至った背景，経緯を考えると，自主性だけにこだわるのでは前に進まないで，各大学は血のにじむ思いをする覚悟が必要である。そういったことを念頭に置いて検討を進めていただきたい。

○ 今回の連携・統合の議論を進めていくにあたり，3大学以外の他の大学の参画の意思

表示があれば、公立大学等も含め広く参画できるよう可能性を狭めない方が良い。

- これからの北海道経済、地方の活性化をどうしていくかということを考えると、3大学の連携・統合により、多くのビジネスチャンスが北海道に生まれると考えている。例えば、AIを駆使した農業、北方圏との関係、新エネルギーの取組等が北海道にはある。北海道のこれからの方向性を見据え、今回の連携・統合がどのように寄与するのか、そこにどのようなビジネスチャンスがあるのか、また、起業のチャンスがあるのか、大いに論議していただきたい。私は大賛成である。ぜひ北海道の活性化に寄与していただきたい。和田学長が中心になって、連携・統合のリーダーシップをとっていただきたい。
- 石油業界の例で言えば、ホールディング会社は基本的に全体の経営のことにのみを考えるとというのが実態であり、現場の声が伝わらない状況がある。そういう意味では、ホールディング方式をとるにしても、経営のことだけを考えるのではなく、それぞれの大学、教職員、学生の声が届くような仕組みを考えていただきたい。風通しの良いホールディング形式の統合が望まれる。
- 新聞報道によると、名古屋大学と岐阜大学の統合の例などがあるようだが、これは大に小が依存する吸収合併のような規模違う大学間での統合である。一方、今回の3大学の連携・統合は、パートナー間の戦略的連携の動きとして、日本で初めての国立大学の動きである。難しさはあると思うが、パイオニア精神を発揮し、実りある成果を出していただきたい。

2. 国立大学法人小樽商科大学学長選考会議委員の選出について

和田学長から、国立大学法人小樽商科大学学長選考会議委員の選出について諮られ、審議の結果、上林委員、福田委員が選出された。

報 告 事 項

1. 平成30年度入学者選抜結果について

和田学長から、報告資料1に基づき、平成30年度入学者選抜結果について報告があった。

2. 学部一般入試前期日程における仙台試験場について

和田学長から、学部一般入試前期日程における仙台試験場について報告があった。

3. 役員に係る平成30年6月期期末特別手当について

和田学長から、役員に係る平成30年6月期期末特別手当について、増減しないこととした旨報告があった。

4. 最近のトピックスについて

和田学長から、報告資料4に基づき、最近のトピックスについて報告があった。

その他

和田学長から、次回の経営協議会については、6月18日（月）14時30分から開催する予定である旨、発言があった。なお、緊急の案件が生じた場合には、急遽、会議を招集させていただくことも想定されるので、その場合には、会議の開催日程を調整させていただきたい旨、併せて発言があった。

以 上